

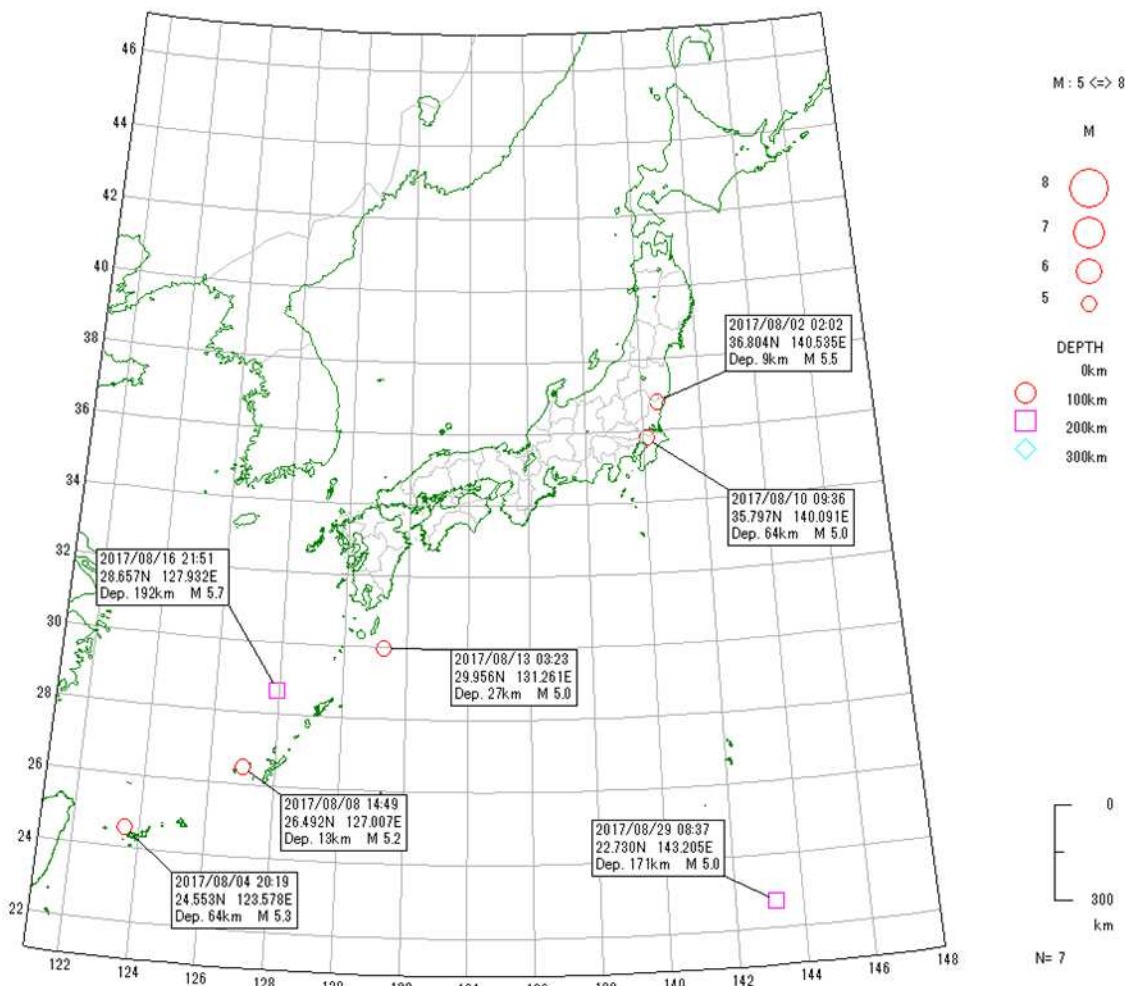
**2017年8月の地震活動概観**

8月に日本列島およびその周辺で発生した地震のうち、図中の範囲でマグニチュード5を超える地震は7個発生しました。7月は11個、6月は6個、5月は9個、4月は7個、3月、2月はいずれも5個でした。8月は少し低調な地震活動であったと言えそうです。ただ8月2日に茨城県北部で発生したマグニチュード5.5の地震で、一部関東地方で震度4を記録しました。この地震については、8月7日発行のニュースレターで詳しく解説しています。

期間中では16日に南西諸島・奄美大島西方で発生したマグニチュード5.7の地震が最大の地震でした。なお今回の図では地震発生の深さを0-100km、100-200km、200-300kmの3つの深さに分けて、異なった記号で表しました。

ちなみに8月には深さ200-300kmではマグニチュード5を超える地震は発生しませんでした。

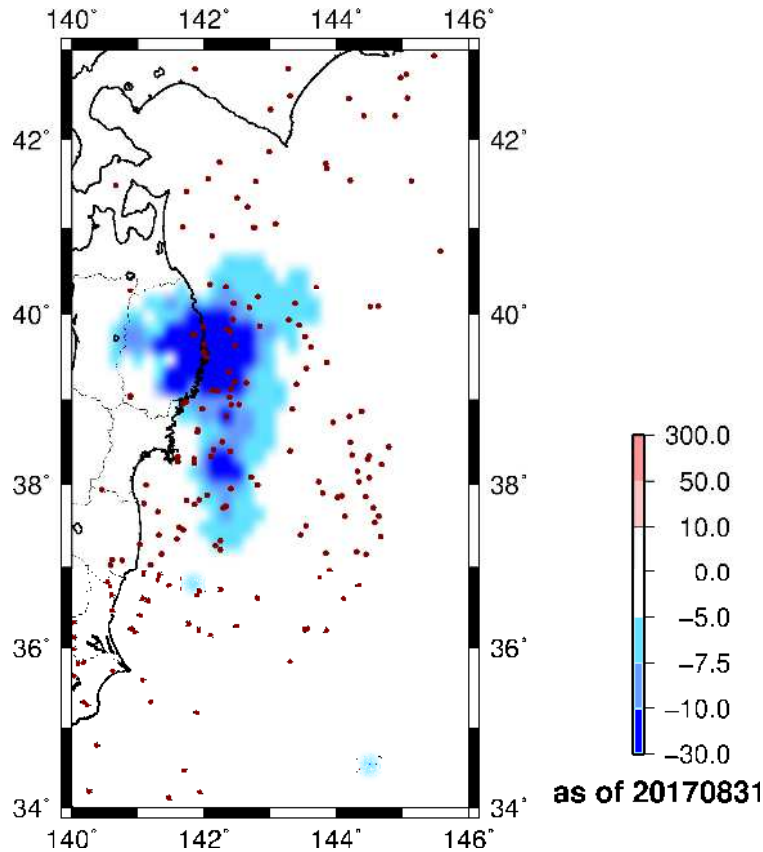
2017 8/1 0:0 — 2017 8/31 23:59

**東北地方およびその沖合をターゲットとした地下天気図***

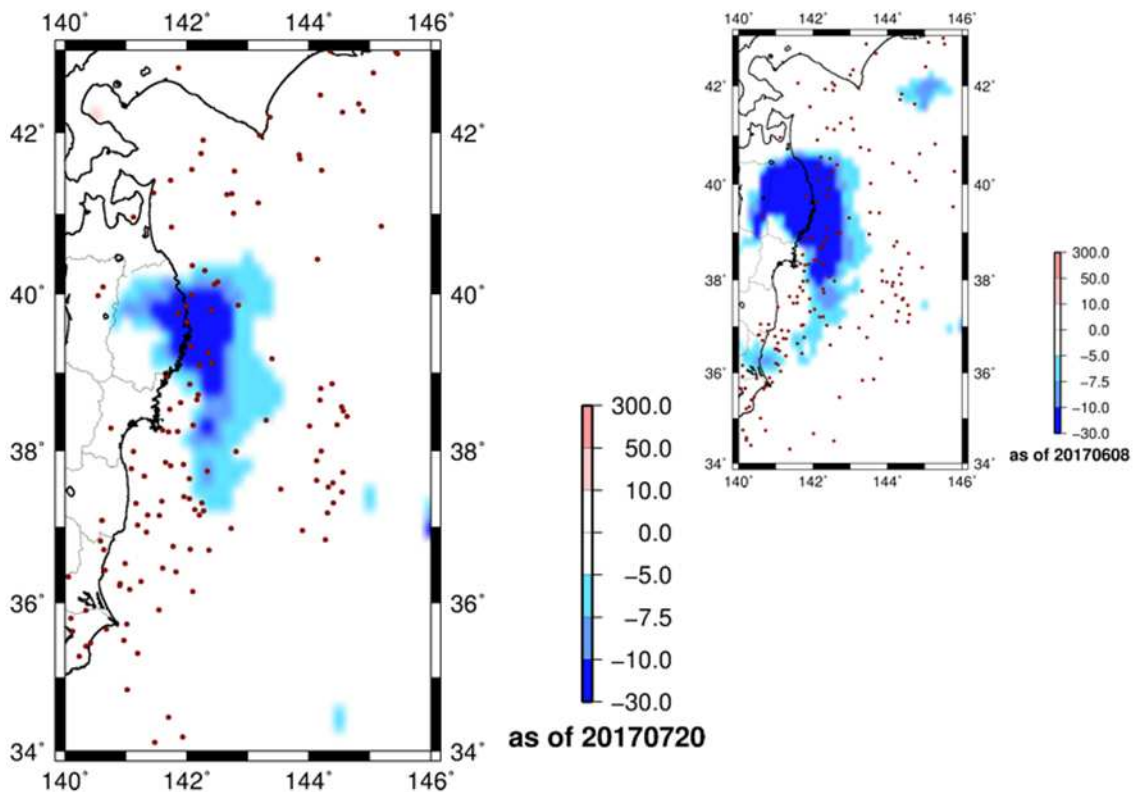
7月24日のニュースレターに引き、続き東北地方の海域をメインターゲットとした地下天気図解析です。この一ヶ月少しの期間では、地震活動静穏化の異常はほとんど変化していない事がわかりました。次の図は8月31日時点の地下天気図です。図中の茶色い小さい丸印は7月以降



に発生し解析に用いた地震を表しています。



下の図は前回（7月20日）および前々回（6月8日）報告させて頂いた地下天気図です。静穏化のピークは6月ごろにあった可能性があります。





将来の南海トラフ沿いの巨大地震について防災対応を検討したほうが良いと考えられる4つのケースについて

前回のニュースレターで、中央防災会議の有識者会議で将来の南海トラフ沿いの巨大地震について防災対応を検討したほうが良いと考えられる4つのケースを紹介いたしました。今回はまず南海トラフで過去に発生した巨大地震の歴史について述べたいと思います。

南海トラフでは、過去1,500年間に発生した巨大地震の歴史は、古文書などにより判明しています。下の図は、政府・地震調査委員会のウェブページに掲載されている図ですが (http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k_nankai.htm)、南海トラフでは基本的に同時か、東側の東海（および東南海）ブロックが割れて、その後、西側の南海ブロックが割れるという事が知られています。実は西側のブロックが先に割れた場合もあるのではないかと主張する研究者も存在しますが、現在の政府（内閣府および気象庁）は西側から割れる事は想定していません。特に最近の2ケース（昭和および安政の地震）では、それぞれ2年および32時間という時間間隔で先に東側のブロックで地震が発生しました。これが次回以降解説します【ケース1】というものになります。

